

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. II-25	資料名	朝鮮通信使小童図
<div data-bbox="480 297 683 813" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="762 383 1171 797" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="576 822 1007 860" data-label="Caption"> <p>紙本著色（縦×横）91.4×28.0cm</p> </div>			
<p>馬に乗る通信使の一員（小童）に対して日本人が紙を掲げ、揮毫を受けている様子が描かれている。中央右に配された令旗の存在から通信使一行の人物であることがわかる。当時、通信使一行と日本の一般人との接触は原則認められていなかったが、揮毫を求めたり筆談唱和など、さかんに交流は行われていた。画者・英一蝶（1652～1724）の生没年と経歴等から、本作は1711年に来日した通信使に刺激を受けて描かれたものと考えられる。</p>			
資料番号	J. II-26	資料名	釜山浦富士図
<div data-bbox="304 1234 1287 1753" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="547 1771 1037 1809" data-label="Caption"> <p>紙本墨画淡彩（縦×横）57.9×92.8cm</p> </div>			
<p>幕府お抱えの高名な絵師狩野典信が描いたもの。画面中央には、朝鮮の釜山港を出帆した通信使の渡海船を描き、舳先から二人の人物がはるか彼方に微かに見える日本の富士山を望んでいる様子を描く。現実には釜山から富士山を望むことはできないが、江戸時代には中国や朝鮮半島からも富士山が見えるとの人々の間で流布していたという。富士山は通信使にもよく知られた存在で、日本を代表する景勝地として認知されていた。</p>			